

ビンナガ 南太平洋

Albacore, *Thunnus alalunga*

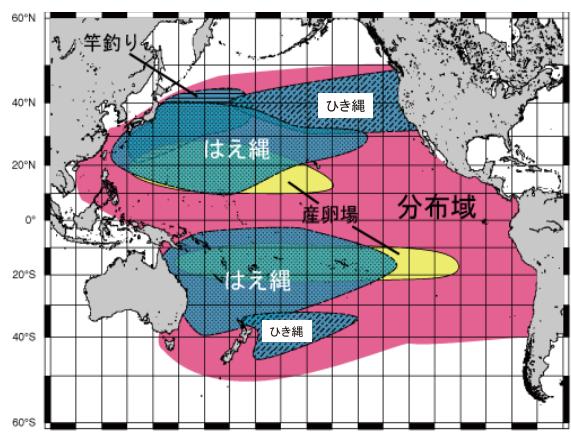


管理・関係機関

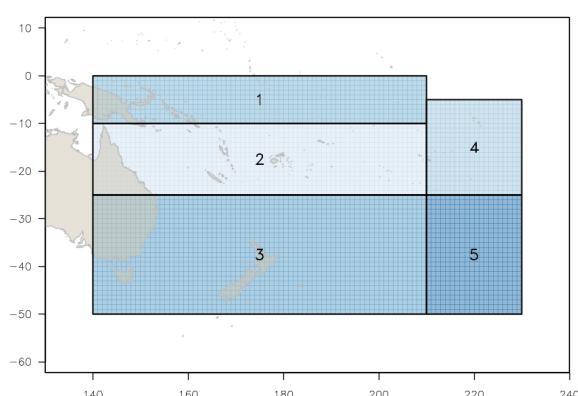
中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
太平洋共同体事務局 (SPC)

生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長最大約 120 cm、約 30 kg
- 寿命：12 歳以上
- 成熟開始年齢：6 歳
- 産卵期・産卵場：10 ~ 2 月（南半球の春・夏季）、中・西部熱帯～亜熱帯海域
- 索餌期・索餌場：南緯 30 ~ 45 度
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類



太平洋におけるビンナガの分布域と主な漁場
南北のビンナガは赤道で区分される。



南太平洋ビンナガの資源評価における海区区分

利用・用途

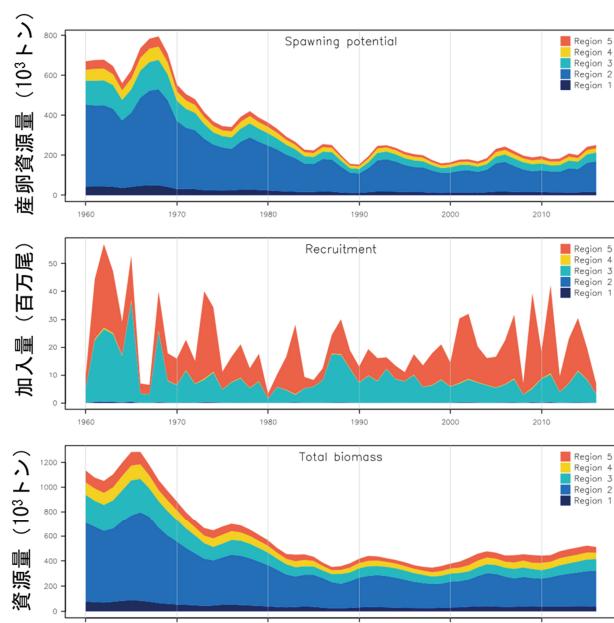
缶詰原料など

漁業の特徴

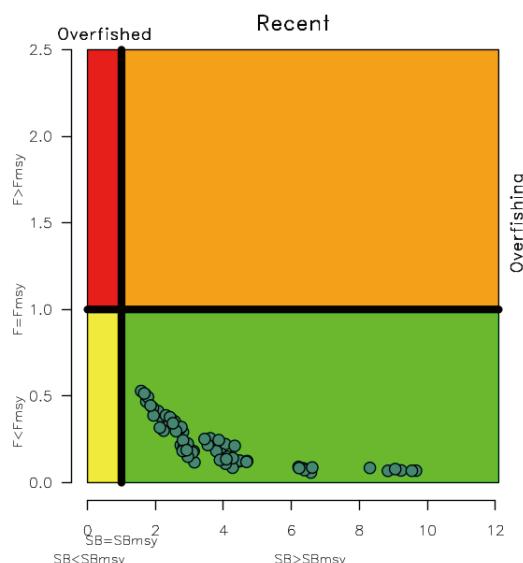
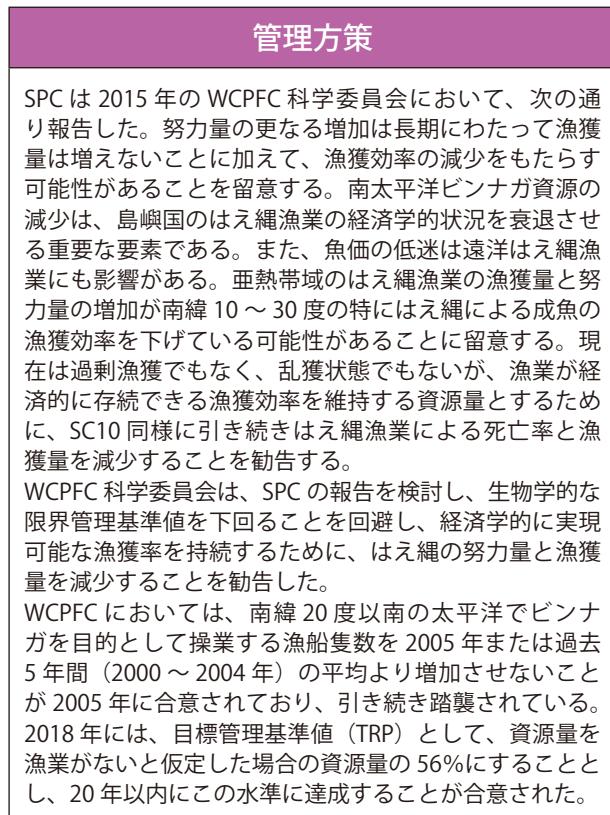
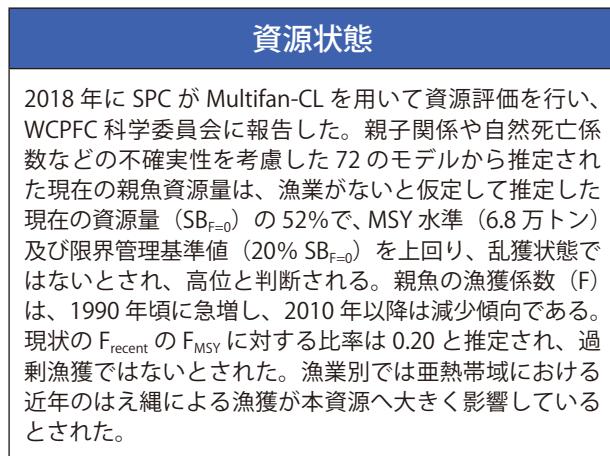
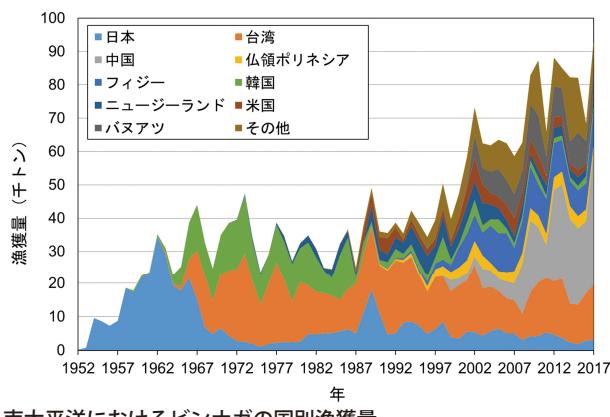
本種を対象とする漁業は、1950 年代初めから日本、韓国、台湾のはえ縄で始まった。1960 年代までの漁業はこの 3 力国のはえ縄だけであったが、1970 年代以降、ニュージーランドや島嶼国などがはえ縄やひき縄で参入し、1980 年代の一時期には流し網も行われた。現在の主な漁業は、遠洋漁業国（日本、中国、台湾、韓国）や島嶼国（フィジー、サモア、仮領ポリネシア）のはえ縄、ニュージーランド、米国のひき縄であり、竿釣りの漁獲はわずかである。

漁獲の動向

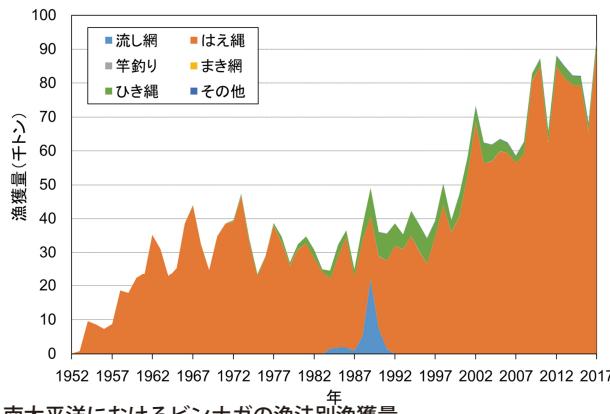
年間の総漁獲量は、1960 年に 2 万トンを超えてから 1990 年代までは約 2.2 万 ~ 4.9 万トンの範囲で増減していたが、2000 年代以降は増加して 2017 年まで 4.7 万 ~ 9.3 万トンで推移している。2017 年は 9.3 万トンであり、2016 年の水準を 34% 上回り、2012 ~ 2016 年の平均も下回った。国別の漁獲量は、1970 年代以降 2000 年代まで最大であった台湾が近年減少する一方、中国が 2008 年から急増し、2014 年以降、最大となった。また、近年は島嶼国の漁獲量も急増している。漁業別の漁獲量は、近年は中国以外の遠洋漁業国のはえ縄が減少し、島嶼国のはえ縄が増加しつつある。はえ縄以外では、ニュージーランドのひき縄が最も多い。



南太平洋の各海域区分におけるビンナガの産卵資源量（上段）、加入量（中段）、資源量（下段）の推定値

南太平洋のビンナガに関する F/F_{MSY} と SB/SB_{MSY} 

南太平洋におけるビンナガの国別漁獲量



南太平洋におけるビンナガの漁法別漁獲量

ビンナガ(南太平洋)の資源の現況(要約表)	
資源水準	高位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	6.8 万 ~ 9.3 万トン 最近 (2017) 年 : 9.3 万トン 平均: 8.2 万トン (2013 ~ 2017 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	1,914 ~ 3,667 トン 最近 (2017) 年 : 3,256 トン 平均: 2,823 トン (2013 ~ 2017 年)
管理目標	検討中
資源評価の方法	MULTIFAN-CL
資源の状態 *	$MSY = 98,080$ $F_{recent}/F_{MSY} = 0.20$ $SB_{recent}/SB_{F=0} = 0.52$ $SB_{recent}/SB_0 = 0.56$
管理措置	南緯 20 度以南の漁船隻数を 2005 年または過去 5 年 (2000 ~ 2004 年) の平均以下に抑制
最新の資源評価年	2018 年
次回の資源評価年	2021 年

* 72 のモデルの中央値